

奥州市立病院・診療所経営強化プラン点検・評価書
(令和6年度実績)

令和7年10月
奥州市医療局

目 次

1	点検・評価について-----	P3
	(1) はじめに	
	(2) 点検・評価の方法	
	(3) 評価基準	
2	点検・評価調書	
	(1) 医療局全体	P4～P8
	(2) 総合水沢病院	P9～P11
	(3) まごころ病院	P12～P14
	(4) 前沢診療所	P15～P17
	(5) 衣川診療所	P18～P20
	(6) 衣川歯科診療所	P21～P23
3	外部評価-----	P24
	(1) 外部評価委員の評価・意見等	
4	おわりに -----	P25

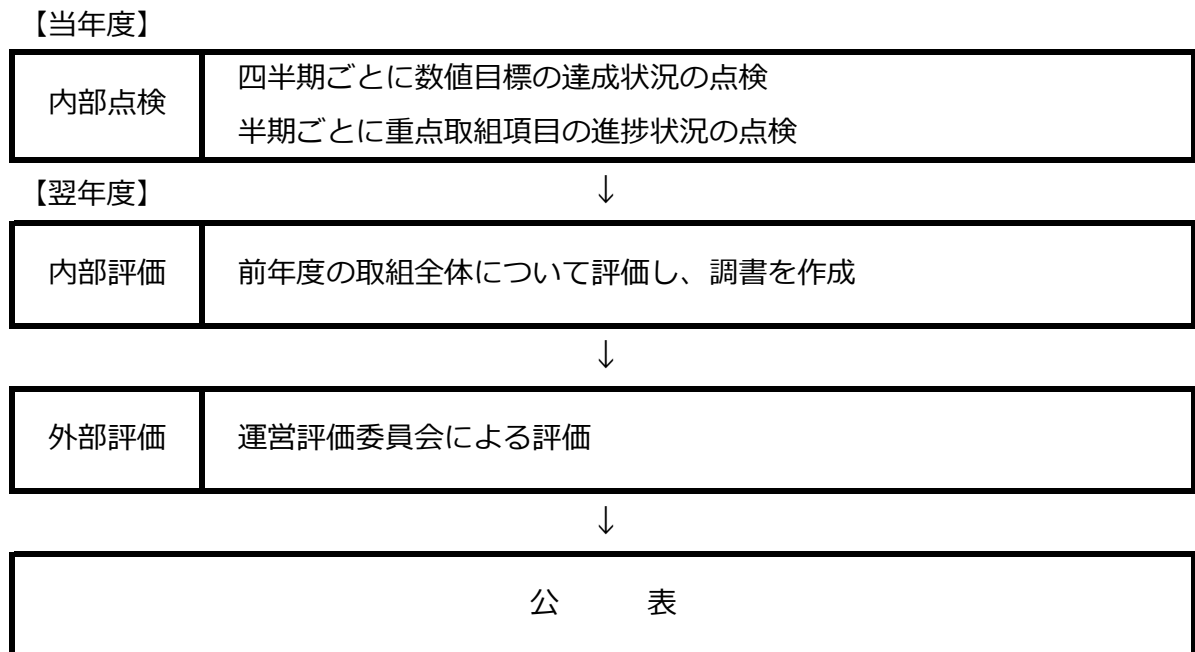
1 点検・評価について

(1) はじめに

奥州市立病院・診療所経営強化プランは、令和5年度から令和9年度までを目標期間とし、持続可能な地域医療提供体制を確保するため、市立医療施設の役割分担、連携強化、経営効率化などを定めています。

プランの実現に向けては、その実施状況を定期的に把握し、評価することが求められています。そのため、内部点検及び内部評価を実施した後、有識者等で構成される経営強化プラン運営評価委員会による客観的な外部評価を実施し、必要に応じて、適宣、目標達成のための施策を検討するものです。

(2) 点検・評価の流れ



(3) 評価基準

A	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
B	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

令和6年度 奥州市立病院・診療所経営強化プラン点検・評価調書

施設名	医療局全体
-----	-------

1 数値目標の実績

(1) 医療機能や医療の質、連携強化等にかかる数値目標

指 標	令和5年度 実績	令和6年度 目標	令和6年度 実績	達成率	評価
医師数	25人	27人	25人	92.6%	B
入院患者数	29,715人	33,540人	32,821人	97.9%	B
外来患者数	113,868人	119,595人	116,451人	97.4%	B
救急車搬送者数	1,092人	940人	1,234人	131.3%	A
救急患者受入数	1,460人	1,580人	1,575人	99.7%	B
訪問診療件数	1,328件	1,531件	1,288件	84.1%	C
訪問看護件数	6,832件	6,900件	6,769件	98.1%	B

※ 救急患者受け入れ人数は救急搬送者数を含まないものとする。

(2) 経営指標に対する数値目標

区 分			令和5年度 実績	令和6年度 目標	令和6年度 実績	評価
収益改善に係る目標	経常収支比率		91.7%	90.1%	86.9%	B
	医業収支比率		62.8%	64.6%	62.7%	B
	修正医業収支比率		57.6%	59.6%	57.4%	B
	累積欠損金比率		65.1%	77.3%	81.1%	B
収入確保に係る目標	1日当たり平均 患者数	入院	81.2人	91.9人	89.9人	B
		外来	496.7人	492.2人	509.2人	A
	患者1人1日 当たり診療収入	入院	34,938円	36,713円	35,944円	B
		外来	9,685円	10,175円	9,441円	B
	病床利用率（稼働病床）		50.1%	56.7%	55.5%	B
経費削減に係る目標	対修正医業収 益比率	材料費	17.7%	18.5%	17.4%	A
		委託費	21.2%	20.9%	21.2%	B
		職員給与費	98.7%	100.3%	98.4%	A
		減価償却費	10.4%	10.6%	11.5%	B
経費の安定化に係る 目標	常勤医師数		25人	27人	25人	B
	常勤看護師数		142人	153人	142人	B

2 収支計画の実績

(1) 収益的収支

単位：千円

	計画値	実績	計画値との差	達成率	評価
1 医業収益	2,789,859	2,719,879	-69,980	97.5%	B
(1) 入院収益	1,231,370	1,179,715	-51,655	95.8%	B
(2) 外来収益	1,216,876	1,107,837	-109,039	91.0%	B
(3) その他医業収益	341,613	432,327	90,714	126.6%	A
うち他会計負担金	212,436	232,658	20,222	109.5%	A
2 医業費用	4,321,536	4,350,821	29,285	99.3%	B
(1) 給与費	2,503,491	2,546,315	42,824	98.3%	B
(2) 材料費	477,655	442,769	-34,886	107.3%	A
(3) 経費	1,033,925	1,045,876	11,951	98.8%	B
(4) 減価償却費	272,428	292,931	20,503	92.5%	B
(5) 資産減耗費	8,849	5,977	-2,872	132.5%	A
(6) 研究研修費	14,234	9,066	-5,168	136.3%	A
(7) 本部費配賦額	10,954	7,887	-3,067	128.0%	A
医 業 損 益	-1,531,678	-1,630,942	-99,264	93.5%	B
3 医業外収益	1,248,240	1,218,453	-29,787	97.6%	B
4 医業外費用	147,548	169,549	22,001	85.1%	C
5 訪問看護事業収益	69,216	55,436	-13,780	80.1%	C
(1) 外来収益	69,216	55,436	-13,780	80.1%	C
(2) その他医業収益	0	0	0	-	-
6 訪問看護事業費用	88,603	75,135	-13,468	115.2%	A
(1) 給与費	81,974	70,966	-11,008	113.4%	A
(2) 材料費	0	0	0	-	-
(3) 経費	6,553	4,143	-2,410	136.8%	A
(4) 減価償却費	0	0	0	-	-
(5) 資産減耗費	0	0	0	-	-
(6) 研究研修費	76	25	-51	167.1%	A
7 訪問看護事業外収益	18	60	42	334.8%	A
8 訪問看護事業外費用	0	0	0	-	-
経常損益	-450,355	-601,677	-151,322	66.4%	C
特別利益	417	1,224	807	293.6%	A
特別損失	2,705	3,300	595	78.0%	C
当年度純損益	-452,643	-603,752	-151,109	66.6%	C
前年度繰越欠損金	1,704,442	1,645,874	-58,568	103.4%	A
当年度未処理欠損金	2,157,085	2,249,626	92,541	95.7%	B

(2) 資本的収支

単位：千円

	計画値	実績	計画値との差	達成率	評価
資本的収入	298,933	395,440	96,507	132.3%	A
資本的支出	526,608	506,311	-20,297	103.9%	A
投資	421,872	421,872		100%	

(3) 一般会計からの繰出金

単位：千円

	計画値	実績	計画値との差	備考
収益的収支	1,395,157	1,345,647	-49,510	
資本的収支	263,454	248,919	-14,535	
合 計	1,658,611	1,594,566	-64,045	

Ⅲ 取組の実施状況

1 役割・機能の最適化と連携の強化（経営強化プラン P21～29）

①地域医療構想を踏まえた市立医療施設が果たすべき役割・機能	当圏域では、県立胆沢病院が基幹病院として急性期医療を、他の病院及び診療所が軽度の急性期から慢性期までを担い、胆沢病院を中心に機能を分担する形の医療提供体制が構築されています。 市立医療施設ではそれぞれの特色を生かしながら、地域医療構想の実現に向けて下記の取組を実施しました。 総合水沢病院：基幹病院である県立胆沢病院の救急機能を補完するために取り組んだ結果、救急対応についてプランの目標値を大きく上回りました。また、今後の需要が見込まれる回復期機能を充実させるため、理学療法士の雇用を進めリハビリ部門の体制強化を図りました。 まごころ病院：地域に密着した病院として、在宅医療や高齢者救急対応に取り組みました。 前沢診療所：健診、生活習慣病予防や認知症啓発に取組み、健診受診率の向上に寄与しました。 衣川診療所・衣川歯科診療所：同地域におけるへき地診療所として、モバイルクリニックによる遠隔診療、訪問歯科診療による在宅医療に取り組みました。
②地域包括ケアシステム構築に向け果たすべき役割・機能	医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムの構築を実現するために公立病院としての役割を担うことが必要となっていることから、令和6年度は下記の在宅医療施策を実施しました。 【訪問診療】 総合水沢病院、まごころ病院 【訪問看護】 総合水沢病院（訪問看護ステーションきりり）、まごころ病院 【訪問リハビリ】 まごころ病院 【訪問歯科診療】 まごころ病院、衣川歯科診療所
③機能分化・連携強化	市立医療施設が担うべき役割や機能を明確化し、施設間の連携強化とともに圏域内の医療機関との連携を進めることとしています。 市立医療施設間の連携の強化と総合水沢病院の老朽化問題の改善を図るため、新医療センターの整備を進めております。 現状の取り組みとしては、検査業務の集約を進めるとともに、放射線技師や臨床検査技師等の一部職種において、衣川診療所の常勤配置を総合水沢病院及び前沢診療所からの派遣体制へ変更する等、応援体制の構築を進めました。
④一般会計繰出金の考え方	病院事業は、地方公営企業として運営されているため、独立採算制が原則とされていますが、へき地医療、救急医療、小児医療、災害医療、感染症医療などの不採算医療を担っていることから、地方公営企業法において「その性質上経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費」や「地方公営企業の性質上能率的な経営を行ってもなおその経営に伴う収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費」については、一般会計等が負担するものと規定されており、その負担の基本的な考え方については総務省通知により示されています。 令和6年度は、この国の繰出し基準に基づいて、病院事業会計へ一般会計から繰入れを行いました。また、政策的な経費についても市の財政担当課と協議を行いながら、基準外繰出金として繰入れしています。
⑤住民の理解のための取組	日頃から市立医療施設の経営状況等をお知らせするため、決算概要及び経営強化プランの取組の進捗状況などをホームページや広報誌で発信しました。 また、地域住民を対象としたイベントや出前講座を開催し、市立医療施設への理解や市民の健康増進に寄与する取組を行いました。 【令和6年度の取組】 総合水沢病院：ふれあい看護の日 まごころ病院：いわさ健康フェスティバル、達者の里構成施設等研究発表会、出前講座 前沢診療所：まえさわ健康フェスタ、出前講座

2 医師・看護師等の確保と働き方改革（経営強化プラン P29～30）

①医師・看護師の確保	医師の確保については、これまで行ってきた市の医師養成奨学生の義務履行及び東北大学及び岩手医科大学からの派遣、県や国保連の医師奨学生の派遣、医師紹介業者を活用した医師確保に加え、東北医科薬科大学との連携構築の取り組みを進めました。 看護師等の医療従事者の確保については、看護学生に向けた合同説明会への参加やマイナビ等の情報サイトの活用、採用年齢の緩和や即戦力の雇用拡大のための随時試験の実施など、医療人材の確保に努めました。
②医師の働き方改革への対応	総合水沢病院及びまごころ病院では、宿日直による医師の時間外労働時間の上限規制への対応策として「宿日直許可」を令和5年度に取得しています。また、総合水沢病院においては、勤務医等負担軽減計画に基づいてコメディカル部門の協力体制を強化し、特定看護師の活用などによる負担軽減対策に取組みました。

3 経営形態の見直し（経営強化プラン P30）

奥州市立医療施設の経営形態は、地方公営企業法の全部適用となっています。当面の間、現状の全部適用を維持する中で、経営強化プランの取組による経営改善に努めます。

4 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組（経営強化プラン P30～31）

各施設において感染症対策マニュアルを整備し、感染防具の備蓄を行うなど、有事に備えた体制を整えています。 新型コロナウイルス感染症まん延時は、総合水沢病院において専用病室の陰圧化や、PCR検査機器等の導入などの医療環境の整備を行うとともに、感染患者の病床を確保し多くの患者を受け入れました。 今後も新たな感染症の発生に備え感染対応マニュアルや診療継続計画等は適時更新し、感染防護具等の備蓄を行い、引き続き有事に備えて臨機応変に対処できる体制を整えていきます。 【施設基準】 総合水沢病院：感染対策向上加算2 まごころ病院：感染対策向上加算3

5 施設・設備の最適化（経営強化プラン P31）

①施設・設備の最適化	5つの市立医療施設は、施設や設備の老朽化がみられる施設であるため、施設ごとに計画的な修繕や更新による整備を行っています。また、施設・設備の最適化については、令和7年3月に策定した市立医療施設の目指すべき将来の在り方方針に基づき、具体化に向けた取組を検討していくこととしています。
②デジタル化への対応	施設の規模や運用状況に応じて、適切な電子カルテシステムを導入し、効率的で安全性の高い医療を提供しています。オンライン資格確認に対応しています。また、マイナンバーカードの健康保険証利用の利用促進については、ホームページや院内掲示等により、患者への利用推進を実施しました。 【医療DX推進体制整備加算取得施設】 総合水沢病院、まごころ病院、前沢診療所 【看護師等遠隔診療補助加算施設】 衣川診療所 【電子処方箋利用申請済施設】 総合水沢病院、まごころ病院、前沢診療所 【オンライン資格確認対応施設】 総合水沢病院、まごころ病院、前沢診療所、衣川診療所

総 括

令和6年度も「奥州市立病院・診療所経営強化プラン」を基に、各医療施設の強みを生かした連携の強化や、経営改善に取り組みました。

事業収益については、前年度と比較し入院患者を中心とした患者数の伸びや各種健診、リハビリテーション件数の増などから前年度よりも増加したものの、計画値は下回りました。事業費用は、物価の高騰や人件費の上昇により、給与費、経費等が増加したため、前年度に比較して6.0%ほど増加しました。

経常損益については計画値に対して増加していることから、引き続き病床利用率の改善や入院診療単価等の底上げなど、経営改善に向けた取組が必要です。

今後ますます進展する医療ニーズの減少や医療人材の不足、老朽化する施設の更新といった将来課題に対して、その対応を検討を進めていく必要があることから、令和7年3月に「奥州市立医療施設の目指すべき将来の在り方方針」を定めました。市立医療施設が抱える将来課題の具体的な対応策や連携策について、今後検討を深めていきます。

令和6年度 奥州市立病院・診療所経営強化プラン点検・評価調書

施設名	総合水沢病院
-----	--------

1 数値目標にかかる点検

(1) 医療機能や医療の質、連携強化等にかかる数値目標

指 標	令和6年度 目標	令和6年度 実績	達成率	評価	備考
医師数	14人	13人	92.9%	B	・救急車搬送者数増と基幹病院からの連携バス・リハビリ目的の転入院増による。 ・前年並みとなった。 ・診療部の積極的な受入れによる。 ・令和7年1月から3月にかけての利用者死亡による。
入院患者数	18,880人	19,236人	101.9%	A	
外来患者数（訪看を除く）	60,100人	56,493人	94.0%	B	
平均在院日数	15.0日	17.0日	-	-	
紹介率	23.0%	20.3%	88.3%	C	
救急車搬送者数	800人	1,032人	129.0%	A	
救急患者受入数	1,100人	1,141人	103.7%	A	
訪問診療件数	165件	130件	78.8%	C	
訪問看護件数	5,400件	5,642件	104.5%	A	

※ 救急患者受け入れ人数は救急搬送者数を含まないものとする。

(2) 経営指標にかかる数値目標

区 分			令和6年度 目標	令和6年度 実績	評価	備考
収益改善に係る目標	経常収支比率		83.1%	80.8%	B	・人件費の上昇による。 ・MRI、電子カルテ等の高額機器導入による。 ・前年度より内科医1名増となった。 ・前年度と同数。
	医業収支比率		63.4%	62.0%	B	
	修正医業収支比率		58.0%	56.6%	B	
	累積欠損金比率		83.5%	87.5%	B	
収入確保に係る目標	1日当たり平均患者数	入院	51.7人	52.7人	A	
		外来	247.3人	256.8人	A	
	患者1人1日当たり診療収入	入院	40,752円	39,040円	B	
		外来	10,854円	10,143円	B	
	病床利用率（稼働病床）		54.4%	55.5%	A	
経費削減に係る目標	対修正医業収益比率	材料費	21.8%	19.6%	A	
		委託費	20.7%	22.2%	B	
		職員給与費	101.7%	97.6%	A	
		減価償却費	8.5%	9.8%	C	
経費の安定化に係る目標	常勤医師数		14人	13人	B	
	常勤看護師数		100人	90人	B	

2 目標達成に向けた具体的な取組に対する評価

取組項目	実施状況	取組に対する自己評価
1.病床利用率の向上対策	○	・診療部として、平均病床稼働数60床（利用率63%）を目標として、基幹病院からの連携パスの積極的受入れ、開業医のバックベッド登録、救急受入れの増加に努めた。また、各診療科における医師一人あたりの入院患者数について、前年度より実績増を目指すとともに、入院患者数の少ない医師への働きかけを行った結果、病床利用率が向上した。 【令和6年度実績】入院患者数19,236人（前年比2,765人増）、平均病床稼働数53床（前年比9床増）、病床利用率55.5%（8.1%増）
2.救急車の応需率の向上対策	○	・診療部として、救急車受入れ800件/年以上、救急車お断り理由報告書提出率100%を目標とし、可能な限り夜間休日のバックアップ医を配置するよう努めた結果、受入れ件数、応需率ともに前年比増となった 【令和6年度実績】受入件数1,032件（前年比187件増）、応需率67.8%（前年比7.8%）
3.医師奨学生義務履行の取組強化	○	・非常勤（週1日）で義務履行している医師奨学生の早期着任を目指し、本人との面談や大学教授への訪問を複数回実施した。
4.医療連携室の体制強化と取組内容の見直し	○	・前年度の体制を継続し、連携だよりの発行（年4回）、奥州地域、両磐地域の地域連携パス会議へそれぞれ3回出席した。
5.理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの増員によるリハビリ部門の強化	○	・今年度理学療法士2名を採用した結果、リハビリ単位数が大幅な増となった。【令和6年度実績】18,762単位（前年比47%増）。(令和7年度言語聴覚士1名採用)
6.全身MRIによるがん検診の促進	○	・今年度も周知を図るため、市広報、ホームページ、新聞広告に掲載を行った。また、県内初（令和7年3月現在）無痛MRI乳がん検診も開始し、奥州市ふるさと納税の返礼品としても登録した。 【令和6年度実績】全身MRIがん検診221件（8,840,000円）、無痛MRI乳がん検診15件（330,000円）、返礼品3件
7.宿日直許可の取得	◎	・令和5年7月5日取得済み。
8.電子カルテ等の活用による情報連携	○	・前沢診療所の電子カルテと連携することにより紹介状なしでの情報連携が可能となった。
9.施設間検査受委託による外部委託の縮小	○	・前沢診療所からの受託検査は継続して行っている（令和6年12月より3項目増加）。更に外部委託縮小の可能性について、金額、方法、項目等を検討中。
10.地域包括ケア病床の増床検討	×	・対象患者数が現状の24床を満たしていないため、増床検討に至らず。
11.サブアキュートの患者受け入れや介護施設との連携強化	○	・開業医のバックベッド登録者数 4人/1医療機関
12.医療的ケア児の対応検討	○	・医療的ケア児受け入れのためスキルアップ研修は継続し受講している。特定行為研修終了看護師が対応可能となっている。
13.レスパイト入院の対応検討	◎	・医療連携室が相談窓口となり、当院かかりつけや胆江圏域在住者を中心に受入相談に対応した。【令和6年度実績】33件（前年比3件増）

【実施状況】 ◎ = 完了 ○ = 継続中 × = 未実施

3 収支計画の実績

(1) 収益的収支

単位：千円

事業収支	令和6年度				
	計画値	実績	計画値との差	達成率	評価
1 医業収益	1,631,160	1,596,241	-34,919	97.9%	B
(1)入院収益	769,400	750,977	-18,423	97.6%	B
(2)外来収益	652,304	582,168	-70,136	89.2%	C
(3)その他医業収益	209,456	263,096	53,640	125.6%	A
うち他会計負担金	138,983	145,060	6,077	104.4%	A
2 医業費用	2,572,146	2,590,216	18,070	99.3%	B
(1)給与費	1,447,802	1,474,451	26,649	98.2%	B
(2)材料費	324,632	294,509	-30,123	109.3%	A
(3)経費	650,553	664,252	13,699	97.9%	B
(4)減価償却費	126,111	147,060	20,949	83.4%	C
(5)資産減耗費	5,540	1,097	-4,443	180.2%	A
(6)研究研修費	10,936	5,737	-5,199	147.5%	A
(7)本部費配賦額	6,572	3,110	-3,462	152.7%	A
医業損益	-940,986	-993,975	-52,989	94.4%	B
3 医業外収益	585,368	573,084	-12,284	97.9%	B
4 医業外費用	94,363	95,661	1,298	98.6%	B
5 訪問看護事業収益	60,588	48,092	-12,496	79.4%	C
(1)外来収益	60,588	48,092	-12,496	79.4%	C
(2)その他医業収益	0	0	0	-	-
6 訪問看護事業費用	75,271	60,154	-15,117	120.1%	A
(1)給与費	69,142	56,415	-12,727	118.4%	A
(2)材料費	0	0	0	-	-
(3)経費	6,053	3,714	-2,339	138.6%	A
(4)減価償却費	0	0	0	-	-
(5)資産減耗費	0	0	0	-	-
(6)研究研修費	76	25	-51	167.1%	A
7 訪問看護事業外収益	4	35	31	870.5%	A
8 訪問看護事業外費用	0	0	0	-	-
経常損益	-464,660	-528,580	-63,920	86.2%	C
特別利益	23	10	-13	43.5%	C
特別損失	1,601	1,580	-21	101.3%	A
当年度純損益	-466,237	-530,149	-63,912	86.3%	C
前年度繰越欠損金	895,150	908,618	13,468	98.5%	B
当年度未処理欠損金	1,361,387	1,438,767	77,380	94.3%	B

※予備費は未計上

(2) 資本的収支

単位：千円

事業収支	令和6年度				
	計画値	実績	計画値との差	達成率	評価
資本的収入	46,000	81,979	35,979	178.2%	A
資本的支出	94,609	155,736	61,127	35.4%	C

(3) 一般会計からの繰出金

単位：千円

事業収支	令和6年度			
	計画値	実績	計画値との差	備考
収益的収支	705,769	666,857	-38,912	
資本的収支	45,000	79,229	34,229	
合 計	750,769	746,086	-4,683	

令和6年度 奥州市立病院・診療所経営強化プラン点検・評価調査

施設名	まごころ病院
-----	--------

1 数値目標にかかる点検

(1) 医療機能や医療の質、連携強化等にかかる数値目標

指 標	令和6年度 目標	令和6年度 実績	達成率	評価	備考
医師数	9人	9人	100.0%	A	・目標には達しなかったものの、冬季間の緊急入院が多く、令和5年度を895人上回った。
入院患者数	13,140人	12,519人	95.3%	B	
外来患者数（訪看を除く）	38,100人	38,623人	101.4%	A	
平均在院日数	23.5日	21.4日	-	-	
紹介率	28.0%	27.1%	96.8%	B	
救急車搬送者数	140人	202人	144.3%	A	・目標には達しなかったものの、令和5年度を25人上回る結果となった。
救急患者受入数	480人	434人	90.4%	B	
訪問診療件数	1,200件	1,116件	93.0%	B	・24時間体制の他の訪問看護ステーションに依頼するケースが増えたことによる。
訪問看護件数	1,500件	1,127件	75.1%	C	

※ 救急患者受け入れ人数は救急搬送者数を含まないものとする。

(2) 経営指標にかかる数値目標

区 分			令和6年度 目標	令和6年度 実績	評価	備考
収益改善に 係る目標	経常収支比率		96.8%	94.1%	B	・令和５年度実績と比較し、改善している。 ・同上 ・同上 ・同上
	医業収支比率		78.5%	75.3%	B	
	修正医業収支比率		75.3%	71.5%	B	
	累積欠損金比率		102.4%	103.8%	B	
収入確保に 係る目標	１日当たり平均患 者数	入院	36.0人	34.3人	B	・達成度Bであるが、目標値にあと僅かであ った。 ・フォローアップ検査の不足も一因と考える。 ・達成度Bであるが、昨年度の66.2%を上 回った。
		外来	156.8人	164.9人	A	
	患者１人１日当 たり診療収入	入院	32,589円	32,474円	B	
		外来	9,594円	8,593円	C	
	病床利用率（稼働病床）		75.0%	71.5%	B	
経費削減に 係る目標	対修正医業収益 比率	材料費	10.7%	11.2%	B	・諸物価高騰のため。 ・施設管理業者の変更など。 ・医療従事者へのベースアップを実施したた め、医業収益の増加にもかかわらず比率の 下がり小さかった。
		委託費	18.8%	16.8%	A	
		職員給与費	85.8%	86.5%	B	
		減価償却費	8.6%	8.9%	B	
経費の安定 化に係る目 標	常勤医師数		9人	9人	A	
	常勤看護師数		37人	37人	A	

2 目標達成に向けた具体的な取組に対する評価

取組項目	実施状況	取組に対する自己評価
1.病床利用率の向上対策	○	入院患者数の状況を電子カルテトップ画面に表示して意識づけを図った結果、令和6年度を上回る結果となり、現在も継続して取組中である。
2.地域包括ケア病床の増床検討	◎	当院の医療提供体制や入院患者の傾向を考慮し、令和5年11月より地域包括ケア病床を10床増やし、全48床中32床とした。その後、関係職員による打ち合わせを頻回に行い、ベッドの有効利用を図っている。
3.在宅や介護施設との連携強化及びサブアキュートの受け入れ	○	在宅や介護施設からのサブアキュート患者の受け入れを積極的に行っている。
4.レスパイト入院の対応検討	○	ショートステイで対応可能な人が大半で、レスパイト入院に至らないケースが多かった。
5.在宅時医学総合管理料の加算	◎	院内体制を整え、令和5年7月より取得。在宅患者により質の高い医療サービスの提供に務めている。
6.連携室の活用による関係機関との連携強化及び紹介率の向上	○	週1回、胆江のみならず、中部・磐井の圏域にも入院患者の受け入れ可能数の提供を行い、中部病院、磐井病院からの紹介もいただいている。
7.ホームページの適時更新による情報提供の促進	○	更新頻度が少ないので、定期的な更新が必要である。
8.同一規模医療機関との診療内容比較による診療単価の見直し	○	
9.新規加算取得の検討	○	研修会参加や新たなチームの立ち上げなどにより、新規に加算を取得できた。
10.業務効率改善による時間外勤務削減	○	看護業務のチェックリストを運用して、時間外の削減につなげている。
11.材料の合同購入及び安価な資材への変更による経費節減	○	医療機関で共通する資材等については医療局が一括して入札を行い、価格の安定を図っている。
12.歯科・口腔外科において、診療体制の見直しによる保険診療人数枠の増加	○	

【実施状況】 ◎ = 完了 ○ = 継続中 × = 未実施

3 収支計画の実績

(1) 収益的収支

単位：千円

事業収支	令和6年度				
	計画値	実績	計画値との差	達成率	評価
1 医業収益	853,757	831,467	-22,290	97.4%	B
(1) 入院収益	428,217	406,547	-21,670	94.9%	B
(2) 外来収益	365,540	334,242	-31,298	91.4%	B
(3) その他医業収益	60,000	90,678	30,678	151.1%	A
うち他会計負担金	35,000	43,024	8,024	122.9%	A
2 医業費用	1,087,456	1,098,530	11,074	99.0%	B
(1) 給与費	689,903	704,895	14,992	97.8%	B
(2) 材料費	87,900	88,969	1,069	98.8%	B
(3) 経費	231,177	226,604	-4,573	102.0%	A
(4) 減価償却費	70,490	70,846	356	99.5%	B
(5) 資産減耗費	2,900	3,445	545	81.2%	C
(6) 研究研修費	1,800	2,347	547	69.6%	C
(7) 本部費配賦額	3,286	1,424	-1,862	156.7%	A
医業損益	-233,699	-267,063	-33,364	85.7%	C
3 医業外収益	231,189	243,755	12,566	105.4%	A
4 医業外費用	28,681	37,504	8,823	69.2%	C
5 訪問看護事業収益	8,628	7,344	-1,284	85.1%	C
(1) 外来収益	8,628	7,344	-1,284	85.1%	C
(2) その他医業収益	0	0	0	-	-
6 訪問看護事業費用	13,332	14,981	1,649	87.6%	C
(1) 給与費	12,832	14,552	1,720	86.6%	C
(2) 材料費	0	0	0	-	-
(3) 経費	500	430	-70	114.1%	A
(4) 減価償却費	0	0	0	-	-
(5) 資産減耗費	0	0	0	-	-
(6) 研究研修費	0	0	0	-	-
7 訪問看護事業外収益	14	25	11	181.7%	A
8 訪問看護事業外費用	0	0	0	-	-
経常損益	-35,882	-68,424	-32,542	9.3%	C
特別利益	300	1,197	897	399.1%	A
特別損失	700	1	-699	199.9%	A
当年度純損益	-36,282	-67,227	-30,945	14.7%	C
前年度繰越欠損金	838,313	803,489	-34,824	104.2%	A
当年度未処理欠損金	874,594	870,716	-3,878	100.4%	A

※予備費は未計上

(2) 資本的収支

単位：千円

事業収支	令和6年度				
	計画値	実績	計画値との差	達成率	評価
資本的収入	56,000	55,964	-36	99.9%	B
資本的支出	136,181	89,570	-46,611	134.2%	A

(3) 一般会計からの繰出金

単位：千円

事業収支	令和6年度			
	計画値	実績	計画値との差	備考
収益的収支	263,488	278,713	15,225	
資本的収支	55,000	55,964	964	
合 計	318,488	334,677	16,189	

令和6年度 奥州市立病院・診療所経営強化プラン点検・評価調書

施設名	前沢診療所
-----	-------

1 数値目標にかかる点検

(1) 医療機能や医療の質、連携強化等にかかる数値目標

指 標	令和6年度 目標	令和6年度 実績	達成率	評価	備考
医師数	1人	1人	100.0%	A	・現状を維持できた。 ・住民の健診率向上等、予防医療の取組の成果及び予約制による来所率の確保がなされたこと。 ・関連する医療機関との連携体制が構築されている。
入院患者数	-	-	-	-	
外来患者数（訪看を除く）	7,816人	8,503人	108.8%	A	
平均在院日数	-	-	-	-	
紹介率	30.6%	29.8%	97.4%	B	
救急車搬送者数	-	-	-	-	
救急患者受入数	-	-	-	-	
訪問診療件数	-	-	-	-	
訪問看護件数	-	-	-	-	

※ 救急患者受け入れ人数は救急搬送者数を含まないものとする。

(2) 経営指標にかかる数値目標

区 分			令和6年度 目標	令和6年度 実績	評価	備考
収益改善に係る目標	経常収支比率		105.6%	93.4%	C	・外来患者数が前年度比7.0%の伸び、1日当たり平均患者数も前年比2.5人の増となったことに合わせて収益も前年比で5.3%の増加が見られた。 ・一方で、材料費19.2%、委託費6.9%、給与費9.7%等、係る経費の物価高騰等の影響、また、予定外のボイラー設備の故障による修繕費の支出等もあり、医業損益は前年比19.5%の減少となった。
	医業収支比率		45.9%	45.3%	B	
	修正医業収支比率		38.6%	37.6%	B	
	累積欠損金比率		-77.0%	-57.0%	C	
収入確保に係る目標	1日当たり平均患者数	入院	-	-	-	
		外来	32.2人	35.6人	A	
	患者1人1日当たり診療収入	入院	-	-	-	
		外来	7,815円	7,736円	B	
	病床利用率（稼働病床）		-	-	-	
経費削減に係る目標	対修正医業収益比率	材料費	11.6%	13.3%	C	
		委託費	43.0%	42.9%	A	
		職員給与費	110.6%	109.1%	A	
		減価償却費	54.0%	48.6%	A	
経費の安定化に係る目標	常勤医師数		1人	1人	A	
	常勤看護師数		4人	4人	A	

2 目標達成に向けた具体的な取組に対する評価

取組項目	実施状況	取組に対する自己評価
1.チェック体制強化による特定疾患療養管理料の適正加算	○	特定疾患療養管理料（R6.6改定により生活習慣病管理料を併用）を計画的に職員が連携しながら、適正に加算している。
2.業務内容見直しによる患者受け入れ枠の増加検討	○	予約診療を原則としつつも、新患者等の受け入れも随時、柔軟に対応している。
3.健診の時間短縮による受診者数向上	○	健診受診者の受入枠や受入時間の見直しにより、受診者数が増加した。
4.かかりつけ患者に対する誕生月検査等の実施	○	チェック表を作成し、計画的に漏れが無いよう対応している。
5.関係機関との連携によりＣＴ、骨密度、臨床検査等の受託推進	○	地域内の関係医療機関への働きかけなどにより受託推進を図っている。
6.心療内科の専門性を生かした医療提供	○	スタッフによる勉強会を開催し、共通の意識を持ち、患者に信頼され、選ばれる施設環境の充実を図っている。

【実施状況】 ◎＝完了 ○＝継続中 ×＝未実施

3 収支計画の実績

(1) 収益的収支

単位：千円

事業収支	令和6年度				
	計画値	実績	計画値との差	達成率	評価
1 医業収益	81,329	89,616	8,287	110.2%	A
(1)入院収益	0	0	0	-	-
(2)外来収益	61,082	65,780	4,698	107.7%	A
(3)その他医業収益	20,247	23,836	3,589	117.7%	A
うち他会計負担金	13,019	15,172	2,153	116.5%	A
2 医業費用	177,013	197,736	20,723	88.3%	C
(1)給与費	75,572	84,211	8,639	88.6%	C
(2)材料費	7,890	9,890	2,000	74.7%	C
(3)経費	55,849	65,741	9,892	82.3%	C
(4)減価償却費	36,915	36,171	-744	102.0%	A
(5)資産減耗費	72	1,020	948	-1217.3%	C
(6)研究研修費	386	445	59	84.8%	C
(7)本部費配賦額	329	258	-71	121.6%	A
医業損益	-95,684	-108,119	-12,435	87.0%	C
3 医業外収益	116,073	106,160	-9,913	91.5%	B
4 医業外費用	9,859	11,769	1,910	80.6%	C
5 訪問看護事業収益	0	0	0	-	-
(1)外来収益	0	0	0	-	-
(2)その他医業収益	0	0	0	-	-
6 訪問看護事業費用	0	0	0	-	-
(1)給与費	0	0	0	-	-
(2)材料費	0	0	0	-	-
(3)経費	0	0	0	-	-
(4)減価償却費	0	0	0	-	-
(5)資産減耗費	0	0	0	-	-
(6)研究研修費	0	0	0	-	-
7 訪問看護事業外収益	0	0	0	-	-
8 訪問看護事業外費用	0	0	0	-	-
経常損益	10,530	-13,729	-24,259	-130.4%	C
特別利益	5	17	12	338.4%	A
特別損失	100	113	13	87.3%	C
当年度純損益	10,435	-13,825	-24,260	-132.5%	C
前年度繰越欠損金	-52,177	-64,880	12,703	124.3%	A
当年度未処理欠損金	-62,612	-51,055	-11,557	81.5%	C

※予備費は未計上

(2) 資本的収支

単位：千円

事業収支	令和6年度				
	計画値	実績	計画値との差	達成率	評価
資本的収入	54,000	42,551	-11,449	78.8%	C
資本的支出	93,256	66,054	-27,202	129.2%	A

(3) 一般会計からの繰出金

単位：千円

事業収支	令和6年度			
	計画値	実績	計画値との差	備考
収益的収支	128,092	119,852	-8,240	
資本的収支	54,000	42,551	-11,449	
合 計	182,092	162,403	-19,689	

令和6年度 奥州市立病院・診療所経営強化プラン点検・評価調査

施設名	衣川診療所
-----	-------

1 数値目標にかかる点検

(1) 医療機能や医療の質、連携強化等にかかる数値目標

指 標	令和6年度 目標	令和6年度 実績	達成率	評価	備考
医師数	2人	1人	50.0%	C	・常勤医師1名が令和6年6月末で退職したもの。 ・入院患者数及び外来患者数について、常勤医師1名の退職により、その後の診療体制が決まらず、影響が出たもの。 ・訪問診療について、オンライン診療のみの実施のため。
入院患者数	1,520人	1,066人	70.1%	C	
外来患者数（訪看を除く）	8,961人	7,853人	87.6%	C	
平均在院日数	17.0日	13.6日	-	-	
紹介率	20.0%	14.5%	72.5%	C	
救急車搬送者数	-	-	-	-	
救急患者受入数	-	-	-	-	
訪問診療件数	156件	22件	14.1%	C	
訪問看護件数	-	-	-	-	

※ 救急患者受け入れ人数は救急搬送者数を含まないものとする。

(2) 経営指標にかかる数値目標

区 分			令和6年度 目標	令和6年度 実績	評価	備考
収益改善に係る目標	経常収支比率		106.9%	101.0%	B	・入院患者数及び外来患者数が減少した影響で医業収益も減少し、目標を下回ったもの。
	医業収支比率		44.0%	40.8%	B	
	修正医業収支比率		40.4%	36.2%	C	
	累積欠損金比率		23.7%	32.1%	B	
収入確保に係る目標	1日当たり平均患者数	入院	4.2人	2.9人	C	
		外来	36.9人	32.7人	C	
	患者1人1日当たり診療収入	入院	22,206円	20,816円	B	
		外来	10,998円	10,556円	B	
	病床利用率（稼働病床）		21.9%	15.4%	C	
経費削減に係る目標	対修正医業収益比率	材料費	34.6%	36.1%	B	
		委託費	29.3%	27.6%	A	
		職員給与費	139.1%	140.9%	B	
		減価償却費	22.3%	26.9%	C	
経費の安定化に係る目標	常勤医師数		2人	1人	C	
	常勤看護師数		12人	11人	B	

2 目標達成に向けた具体的な取組に対する評価

取組項目	実施状況	取組に対する自己評価
1.へき地診療所としての医療提供体制の確保	○	・地域内唯一の医科医療機関としての役割を担い、隣接する高齢者施設との連携を密にしながら、衣川地域の地域包括ケアシステムを推進するため、医療提供体制の維持に努めた。常勤医師1名が退職した影響が大きかったが、非常勤医師を確保し体制の維持を図った。
2.外来診療単価の適時見直し	○	・新たに看護師等遠隔診療補助加算を取得し、遠隔診療に加算できるよう務めた。一方で担当常勤医師の退職により、地域包括診療加算2、機能強化加算を辞退した。
3.モバイルを活用した遠隔診療の実施	○	・遠隔診療を行う常勤医師の退職などもあり、登録患者数が増えていなかったが、毎週火曜日午後の実施に加え、10月からは非常勤医師による隔週金曜日午後の遠隔診療を実施し、あわせて遠隔診療が望ましいと思われる患者への働きかけを開始したことで、遠隔診療件数が増加した。遠隔診療を進めることにより、高齢者が抱える地域課題に対応した医療提供体制の構築に向けて取り組んだ。
4.健診の受診率向上策検討	○	・市から受託している健診については、常勤医師1名になったことで外来患者が減少し、通常受診日の同日健診も比例して減少した。通院患者への働きかけも行ったが、結果として前年度から5件の減となった。
5.訪問診療の再開	×	・遠隔診療の実施状況を踏まえつつ、医師及び看護師の診療体制と合わせて今後も引き続き検討予定。

【実施状況】 ◎ = 完了 ○ = 継続中 × = 未実施

3 収支計画の実績

(1) 収益的収支

単位：千円

事業収支	令和6年度				
	計画値	実績	計画値との差	達成率	評価
1 医業収益	159,601	136,973	-22,628	85.8%	C
(1) 入院収益	33,753	22,190	-11,563	65.7%	C
(2) 外来収益	98,552	82,897	-15,655	84.1%	C
(3) その他医業収益	27,296	31,886	4,590	116.8%	A
うち他会計負担金	13,054	15,431	2,377	118.2%	A
2 医業費用	363,077	335,316	-27,761	107.6%	A
(1) 給与費	203,826	179,757	-24,069	111.8%	A
(2) 材料費	50,774	43,926	-6,848	113.5%	A
(3) 経費	74,132	75,526	1,394	98.1%	B
(4) 減価償却費	32,707	32,660	-47	100.1%	A
(5) 資産減耗費	337	261	-76	122.5%	A
(6) 研究研修費	753	244	-509	167.6%	A
(7) 本部費配賦額	548	2,942	2,394	-336.9%	C
医業損益	-203,475	-198,343	5,132	102.5%	A
3 医業外収益	240,046	223,067	-16,979	92.9%	B
4 医業外費用	10,881	21,331	10,450	4.0%	C
5 訪問看護事業収益	0	0	0	-	-
(1) 外来収益	0	0	0	-	-
(2) その他医業収益	0	0	0	-	-
6 訪問看護事業費用	0	0	0	-	-
(1) 給与費	0	0	0	-	-
(2) 材料費	0	0	0	-	-
(3) 経費	0	0	0	-	-
(4) 減価償却費	0	0	0	-	-
(5) 資産減耗費	0	0	0	-	-
(6) 研究研修費	0	0	0	-	-
7 訪問看護事業外収益	0	0	0	-	-
8 訪問看護事業外費用	0	0	0	-	-
経常損益	25,689	3,393	-22,296	13.2%	C
特別利益	87	0	-87	0.0%	C
特別損失	285	1,605	1,320	-363.1%	C
当年度純損益	25,491	1,788	-23,703	7.0%	C
前年度繰越欠損金	63,343	45,729	-17,614	127.8%	A
当年度未処理欠損金	37,853	43,941	6,088	83.9%	C

※予備費は未計上

(2) 資本的収支

単位：千円

事業収支	令和6年度				
	計画値	実績	計画値との差	達成率	評価
資本的収入	90,939	164,971	74,032	181.4%	A
資本的支出	142,387	137,829	-4,558	103.2%	A

(3) 一般会計からの繰出金

単位：千円

事業収支	令和6年度			
	計画値	実績	計画値との差	備考
収益的収支	220,068	205,257	-14,811	
資本的収支	57,922	21,585	-36,337	
合 計	277,990	226,842	-51,148	

令和6年度 奥州市立病院・診療所経営強化プラン点検・評価調査書

施設名	衣川歯科診療所
-----	---------

1 数値目標にかかる点検

(1) 医療機能や医療の質、連携強化等にかかる数値目標

指 標	令和6年度 目標	令和6年度 実績	達成率	評価	備考
医師数	1人	1人	100.0%	A	・訪問歯科診療件数については、令和5年度の6件から令和6年度は20件となり、地域内の広報の活用やケアマネジャーを対象とした訪問口腔ケア研修会を開催など、周知活動に力を入れた結果、訪問診療件数の達成率につながった。
入院患者数	-	-	-	-	
外来患者数（訪看を除く）	4,618人	4,979人	107.8%	A	
平均在院日数	-	-	-	-	
紹介率	1.5%	1.5%	100.0%	A	
救急車搬送者数	-	-	-	-	
救急患者受入数	-	-	-	-	
訪問診療件数	10件	20件	200.0%	A	
訪問看護件数	-	-	-	-	

※ 救急患者受け入れ人数は救急搬送者数を含まないものとする。

(2) 経営指標にかかる数値目標

区 分		令和6年度 目標	令和6年度 実績	評価	備考
収益改善に 係る目標	経常収支比率	118.3%	106.9%	B	・概ね目標値を達成している。
	医業収支比率	71.5%	73.0%	A	
	修正医業収支比率	54.8%	55.3%	A	
	累積欠損金比率	-102.0%	-91.4%	C	
収入確保に 係る目標	1日当たり平均患者数	入院	-	-	
		外来	19.0人	20.8人	
	患者1人1日当たり診療収入	入院	-	-	
		外来	8,531円	8,586円	
	病床利用率（稼働病床）	-	-	-	
経費削減に 係る目標	対修正医業収益比率	材料費	15.9%	12.5%	
		委託費	13.2%	13.5%	
		職員給与費	121.3%	124.4%	
		減価償却費	15.3%	14.2%	
経費の安定化に 係る目標	常勤医師数		1人	1人	
	常勤看護師数		-	-	

2 目標達成に向けた具体的な取組に対する評価

取組項目	実施状況	取組に対する自己評価
1.へき地診療所としての医療提供体制の確保	○	・地域内唯一の歯科医療機関として、次年度以降に向けた持続可能な医療提供体制（職員体制）の検討を進めた。
2.診療材料及び診療備品の計画購入による経費削減	○	・予算管理を行いながら診療材料や消耗品の在庫を抱えないよう取り組んだとともに、診療備品の更新計画の作成を行った。

【実施状況】 ◎ = 完了 ○ = 継続中 × = 未実施

3 収支計画の実績

(1) 収益的収支

単位：千円

事業収支	令和6年度				
	計画値	実績	計画値との差	達成率	評価
1 医業収益	53,058	57,694	4,636	108.7%	A
(1) 入院収益	0	0	0	-	-
(2) 外来収益	39,398	42,752	3,354	108.5%	A
(3) その他医業収益	13,659	14,943	1,284	109.4%	A
うち他会計負担金	12,380	13,971	1,591	112.9%	A
2 医業費用	74,247	79,044	4,797	93.5%	B
(1) 給与費	49,325	56,042	6,717	86.4%	C
(2) 材料費	6,458	5,476	-982	115.2%	A
(3) 経費	11,702	10,794	-908	107.8%	A
(4) 減価償却費	6,205	6,194	-11	100.2%	A
(5) 資産減耗費	0	154	154	0.0%	C
(6) 研究研修費	338	233	-105	131.1%	A
(7) 本部費配賦額	219	152	-67	130.5%	A
医業損益	-21,189	-21,349	-160	99.2%	B
3 医業外収益	37,221	29,973	-7,248	80.5%	C
4 医業外費用	2,064	2,961	897	56.5%	C
5 訪問看護事業収益	0	0	0	-	-
(1) 外来収益	0	0	0	-	-
(2) その他医業収益	0	0	0	-	-
6 訪問看護事業費用	0	0	0	-	-
(1) 給与費	0	0	0	-	-
(2) 材料費	0	0	0	-	-
(3) 経費	0	0	0	-	-
(4) 減価償却費	0	0	0	-	-
(5) 資産減耗費	0	0	0	-	-
(6) 研究研修費	0	0	0	-	-
7 訪問看護事業外収益	0	0	0	-	-
8 訪問看護事業外費用	0	0	0	-	-
経常損益	13,968	5,663	-8,305	40.5%	C
特別利益	2	0	-2	0.0%	C
特別損失	19	2	-17	187.1%	A
当年度純損益	13,950	5,660	-8,290	40.6%	C
前年度繰越欠損金	-40,186	-47,082	6,896	117.2%	A
当年度未処理欠損金	-54,136	-52,743	-1,393	97.4%	B

※予備費は未計上

(2) 資本的収支

単位：千円

事業収支	令和6年度				
	計画値	実績	計画値との差	達成率	評価
資本的収入	10,394	10,375	-19	99.8%	B
資本的支出	18,575	17,522	-1,053	105.7%	A

(3) 一般会計からの繰出金

単位：千円

事業収支	令和6年度			
	計画値	実績	計画値との差	備考
収益的収支	39,397	32,554	-6,843	
資本的収支	9,932	9,990	58	
合 計	49,329	42,544	-6,785	

3 外部評価

(1) 外部評価委員の評価・意見等

No.	分類	評価・意見等
1	医療機能や医療の質、連携強化等にかかる数値目標について	救急車搬送者数が目標値を大きく超えて1,234人、130%の達成率は素晴らしい。救急は不採算と言われるが、救急からも患者増に繋がるため、救急車の受け入れを更に頑張ってもらいたい。
2		総合水沢病院、まごころ病院ともに入院・外来患者数が増えており、努力が数値から見てとれる。
3		市内外の県立病院の地域連携パスや関係機関連携会議への参加により、入院患者も増えている。
4		平均在院日数の評価については、平均在院日数が伸びるとA評価となっている。確かに経営的には良いということになると思うが、D P C病院では平均在院日数を短くし、患者数を増やすことが評価される。出来高とD P Cとの違いはあると思うので、評価ではなく参考値程度としてはどうか。
5	収益改善に係る目標	診療報酬が上がらない実態もあり、計画期間内に修正医業収益を黒字化するのは難しい。運営評価委員会による毎年の評価、PDCAサイクルによる計画の見直しも必要になるかもしれない。
6	収入確保に係る目標について	病床利用率は70%は必要であり、夜間救急も断らずに患者を増やしていくべき。
7		総合水沢病院の病床稼働率が低いのではないかと。稼働率が低くても病床数に合わせて職員、特に看護師を配置しなければならず人件費がかかる。病床数を適正な規模に縮小するか、入院患者数を増加させる等により病床稼働率を高める必要がある。
8	経費の安定化に係る目標について	医師、看護師以外の職員数も報告事項に出してもらいたい。事務職や医療技術職など、その他の職員もかなりいると思うが、その部分も効率化することを考えていかなければ人件費の削減にはならない。
9	収支計画の実績について	入院患者や外来患者が前年度に比べて増加し、病床稼働率が上昇している点は経営努力や自助努力の成果を感じる。
10		経営強化プランの目標値との乖離が進むのであれば、目標値を見直す必要がある。
11		増収はしており、かなり頑張っている。
12		材料費は目標値よりも減っているが、患者が減れば材料費も減るので、単純にA評価になるのかは疑問。患者数との関連も考慮しての評価をした方がよい。診療材料を安く購入していることが功を奏しているのであればよい。
13		純損失が6億円であり、この状態が続けば資金不足となる。何とか頑張らなくてはならない。
14	地域医療構想を踏まえた市立医療施設が果たすべき役割・機能	新たな地域医療構想に向け、総合水沢病院では高齢者救急に力を入れていただきたい。そのためには今の医療提供体制も再検討が必要。
15	地域包括ケアシステム構築に向け果たすべき役割・機能	今の患者ニーズとしては、高齢者救急や高齢者の疾患が多いと思うので、高齢者を受け入れしやすい医療提供体制をしっかりと考えるべき。
16		衣川診療所の遠隔診療はとても良い。遠隔診療車の機材を有効活用し、他への利用も検討してほしい。
17	一般会計繰出金の考え方について	一般会計繰出金がかかなりあり、一般会計から見れば支出が累積されていくことになるので、そういう点も考えた上で、今後の経営について考えていただきたい。
18		繰出金は3分の1が地方交付税で国から入ってくるが、残りは自治体負担である。奥州市で言えば約10億円が市の負担。これが続くと市も病院も破綻となりかねない。基準内繰出金により経常収支をゼロ、赤字にしないということを目標にすることが必要である。
19	医師・看護師の確保について	総合水沢病院の包括ケア病床は10対1看護で行っているの、病棟機能の地域包括医療病棟への転換または看護体制の工夫をすべきである。
20	施設・設備の最適化について	昨年度、医療機器や検査機器の共同利用や検査の集約化について検討を進めると話があった。現在、検査は一部の施設で集約化されているとのことだが、それが効率化に繋がると良い。
21	その他	経営改善には職員の意識が大切である。皆が同じ方向を向き、収益を確保する手法にしっかりと取り組み、努力する必要がある。

4 おわりに

地域医療構想における胆江構想区域（奥州市及び金ケ崎町により構成）では、高度急性期、急性期医療については基幹病院である県立胆沢病院を中心とし、主に公的病院が担っており、慢性期は主に民間病院が担うかたちで医療提供体制が確保されています。

この中で市立医療施設は、民間の医療施設で担うことができず、かつ、住民にとって必要な政策医療を提供することを基本と考えています。そのためには、将来的に安定して医療を提供できる持続可能な地域医療体制を構築していかなければなりません。

5つの医療施設が、地域特性のなかでそれぞれが独自性を活かし、地域医療に貢献するためには経営強化の継続的な取組が必要不可欠です。

今回の点検・評価により目標を達成できた項目は引き続き良好な状態を継続できるよう努力し、目標達成に至らなかった項目は検証し改善に努めるとともに、運営評価委員会よりいただいた提言をもとに、なお一層、経営強化に取り組んでまいります。

奥州市立病院・診療所経営強化プラン運営評価委員名簿

任期：令和7年9月1日から令和8年8月31日まで

区 分	団体名	役 職	氏 名
医療経営に関する 有識者	八幡平市	病院事業管理者	望 月 泉
地域医療に関する 有識者	岩手医科大学医学部	糖尿病・代謝・内分 泌内科分野教授	石 垣 泰
	奥州医師会	会 長	亀 井 俊 也
	奥州歯科医師会	会 長	鈴 木 和 彦
医療政策に関する 有識者	奥州保健所	所 長	森 谷 俊 樹